

令和 6 年度（2024 年度）斜里町・羅臼町のヒグマ目撃・対応状況

1. 令和 6 年度（2024 年度）のヒグマ目撃件数など

令和 6 年（2024 年）4 月 1 日～令和 7 年（2025 年）2 月 28 日分

	斜里町	羅臼町	合計
目撃件数	1,084（1,980）件	116（557）件	1,200（2,537）件
対応件数	657（1,032）件	131（553）件	788（1,585）件
有害捕獲頭数	18（56）頭	4（71）頭	22（127）頭

※（）内は前年度同期（令和 5 年（2023 年）4 月 1 日～令和 6 年（2024 年）2 月 29 日）の数値
対応件数は電気柵の維持管理作業等を除く

2. 令和 6 年度（2024 年度）のトピック（2025 年 2 月末日時点）

- ・ 冬眠明けから初夏にかけて、斜里町及び羅臼町の市街地（ゾーン 4）においてヒグマの出没が発生した。ゾーン 4 における出没は、大量出没のあった昨年度を除き、斜里町では平年（2020～2022 年度平均 5.3 件）よりも多く、25 件であった。羅臼町では平年（2020～2022 年度平均 70.3 件）よりも少なく、今年度の市街地（ゾーン 4）への出没は計 46 件であった。
- ・ 斜里町の市街地近傍の農地において、ヒグマの有害捕獲に従事していた実施隊 1 名がヒグマに襲われ負傷する事故が発生した（7 月 30 日）。

3. 町別の対応状況

【斜里町】

- ① ヒグマ目撃件数は 2025 年 2 月末日時点で計 1,084 件、対応件数は 657 件であり、昨年より大幅に減少した（図 1）。ただし、岩尾別地区や知床五湖ではヒグマの目撃が例年並みに頻発した。
- ② 市街地（ゾーン 4）でヒグマの出没が 2 月末日時点で計 25 件（ウトロ市街地 19 件、斜里市街地 6 件）あった（図 2）。
- ③ ウトロ市街地（ゾーン 4）では昨年度に引き続き、自動撮影カメラによる監視対応や電気柵・草刈りなどの対策を実施している。今年度より新たに AI 判別自動撮影カメラやドローンの導入による対策の強化を図っている。
- ④ 斜里市街地の周辺農地での出没が例年と比較し多い傾向にあった。斜里市街地に隣接する防風林沿いで、5 月から 7 月にかけてヒグマの出没が相次ぎ、住宅敷地に置いてあったビートポットを荒らされるなどの被害も発生した（図 3）。
- ⑤ 7 月 30 日に斜里市街地周辺の農地に隣接する防風林（ゾーン 4）にてヒグマの有害捕獲中にハンター 1 名が襲われる事案が発生した。当該ヒグマはその場で別のハンターに捕殺され、被害者は左額部裂傷 10 針、左手人差し指 2 針、左腕擦過傷の怪我を負った。

- ⑥ 7 月から 8 月にかけて町内の養鹿施設内のシカがヒグマに食害される事案が複数件発生した。電気柵を追加設置して侵入を防止するとともに、箱わなを使用して 2 頭のヒグマを有害捕獲した（DNA 分析により 2 頭とも加害個体と判明）。
- ⑦ 4 月 29 日及び 7 月 11 日に知床五湖の高架木道入口付近でオス成獣サイズのヒグマが利用者に対し威嚇突進を繰り返す事案が発生した。7 月 16 日には高架木道入口付近で臨場した対策員に対してオス成獣ヒグマが繰り返し威嚇行動及び威嚇突進を行ったため、関係機関と協議の上、当該ヒグマを有害捕獲した（行動段階 3）。

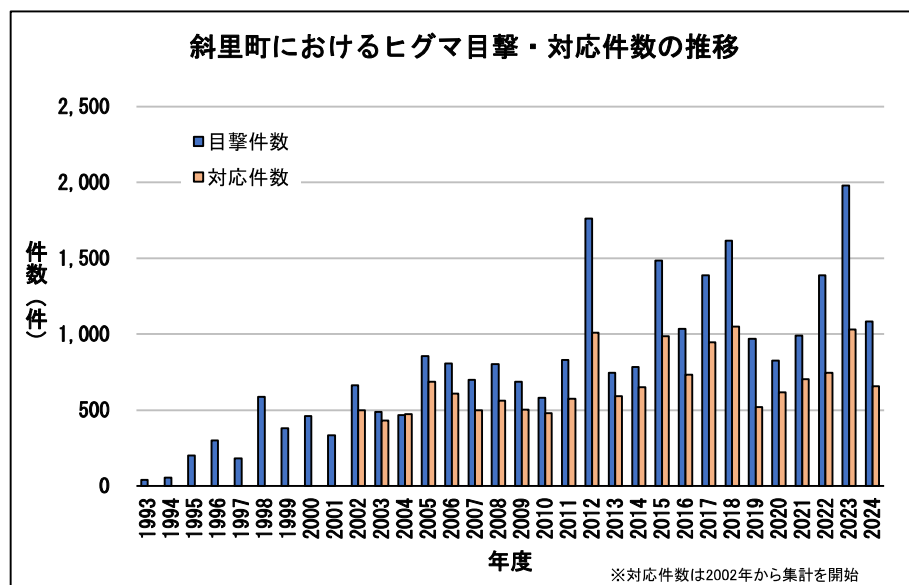


図 1. 斜里町におけるヒグマ目撃・対応件数

※2024 年度は 2 月末時点の集計値

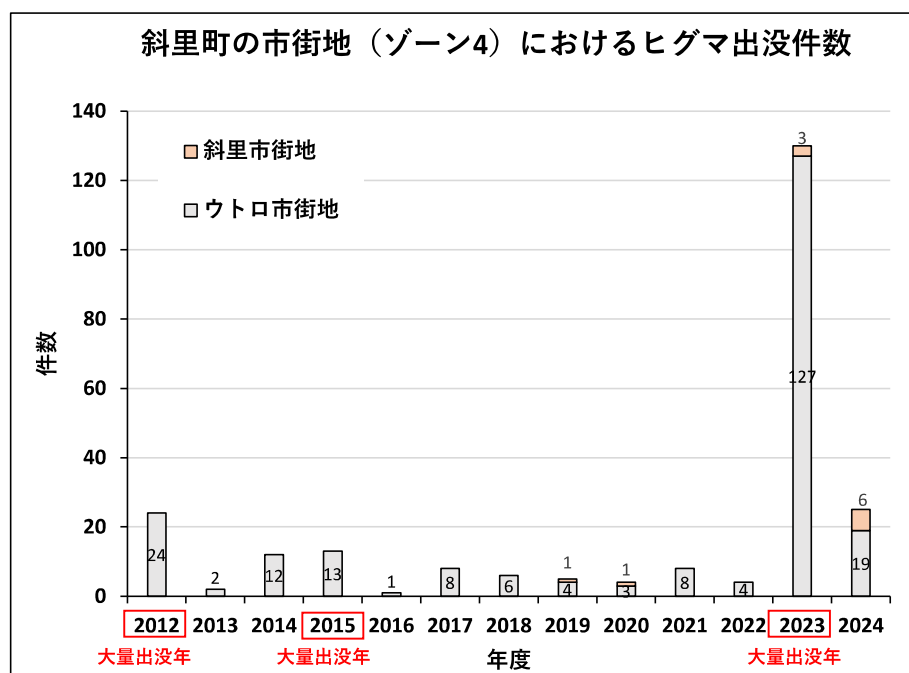


図 2. 斜里町の市街地（ゾーン 4）におけるヒグマ出没件数（2012～2024 年度）

※2024 年度は 2 月末時点の集計値



図 3. 斜里市街地周辺の農地におけるヒグマ出没地点（2024 年 5 月～7 月）

【羅臼町】

- ① 羅臼町におけるヒグマの目撃件数は、2025 年 2 月末時点で 116 件であり、過年度の平均値（2007 年から 2023 年まで）と今年度を比較すると、全ての月において過去の平均値よりも低い値となった。特に、8 月以降の目撃件数はそれぞれ 2 件、9 件、2 件となっており、過年度と比較して著しく低い値となった（図 4, 5）。
- ② 市街地（ゾーン 4）へのヒグマの侵入件数は、目撃を伴うものが 35 件、痕跡のみのものが 11 件で、計 46 件であった（2 月 28 日時点）。前年同日の累計は 254 件（目撃：224 件、痕跡等のみ：30 件）であった。4 月から 6 月にかけて、市街地内（ゾーン 4）におけるヒグマの出没が昨年度を上回るペースで発生していたが、7 月以降はヒグマの出没が落ち着いている（図 6）。餌資源の状況が今年度は昨年度よりもよく、さらには昨年度発生した大量出没による捕殺によって、一時的に個体数が削減された効果であると考えられた。
- ③ 水産加工の残滓や干し魚などがヒグマに荒らされる等の被害は発生していない。市街地へのヒグマの出没は、単純に住宅地内をヒグマが徘徊したり、住宅地裏の草地にヒグマが出没したりするといったケースが多くを占めた。
- ④ 各町内会と協働で市街地内のヒグマ対策草刈りを実施した（5 年目）。ヒグマが身を潜める藪の除去及び地域住民のヒグマ対策意識醸成を目的とし、10 町内会で延べ 116 名の羅臼町民及び関係事業者が参加した。
- ⑤ 国立公園内である知床横断道路（羅臼町）において、人を避けないヒグマが出没し、6 月 18 日に有害捕獲となった。過年度において、車両への付きまといやドアミラーの破壊行為などが疑われていた個体が複数いたが、当該個体はそのうちの一頭であることが遺伝子分析によって明らかとなった。

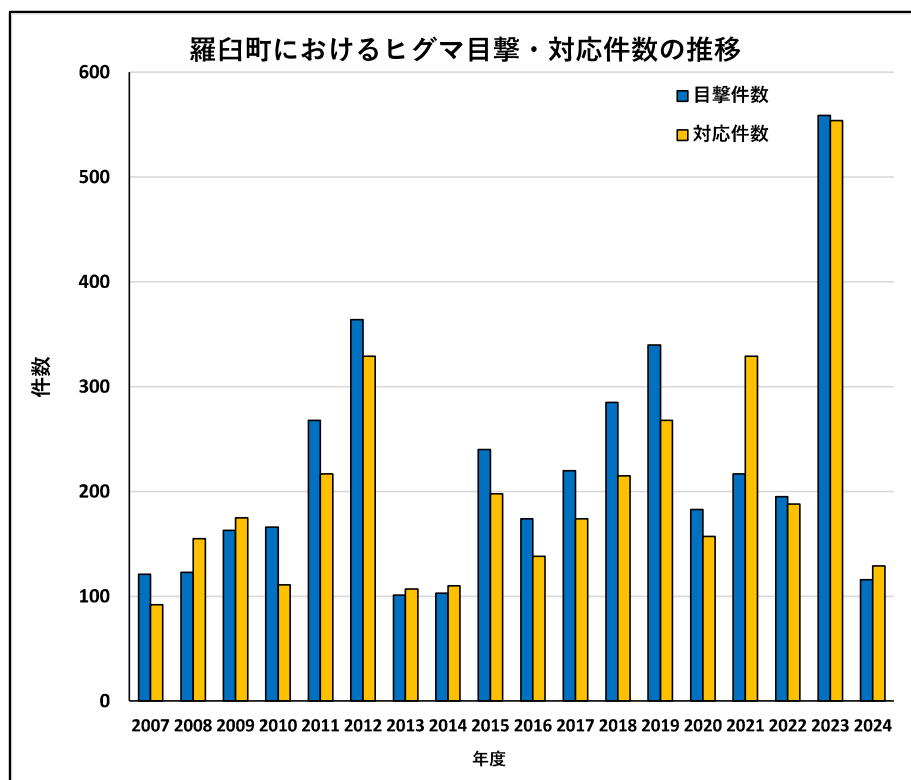


図 4. 羅臼町におけるヒグマ目撃・対応件数の推移（2007 年度～2024 年度）

※2024 年度は 2 月末時点の集計値

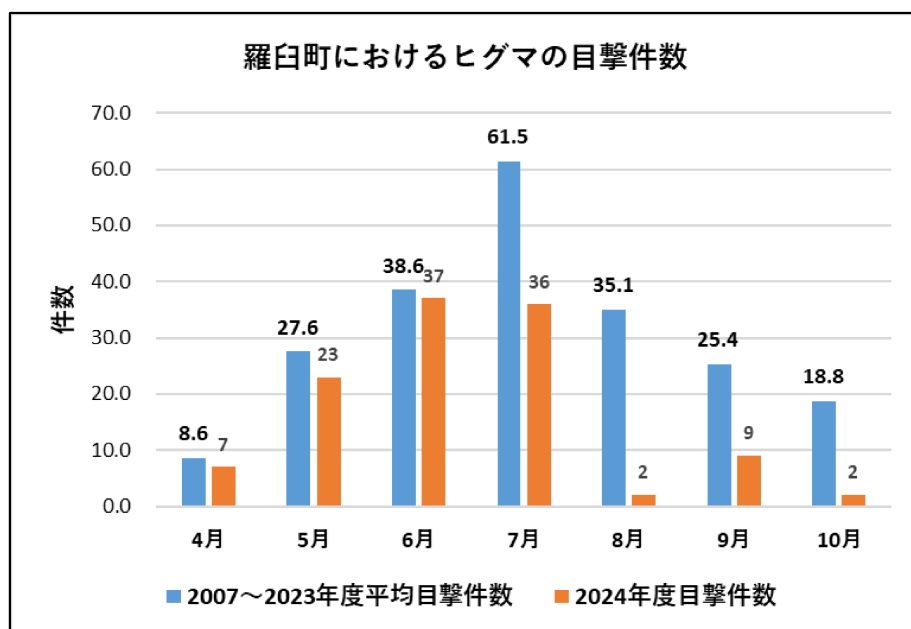


図 5. 羅臼町における月別のヒグマ目撃件数（2024 年度）と平均目撃件数（2007～2023 年度）

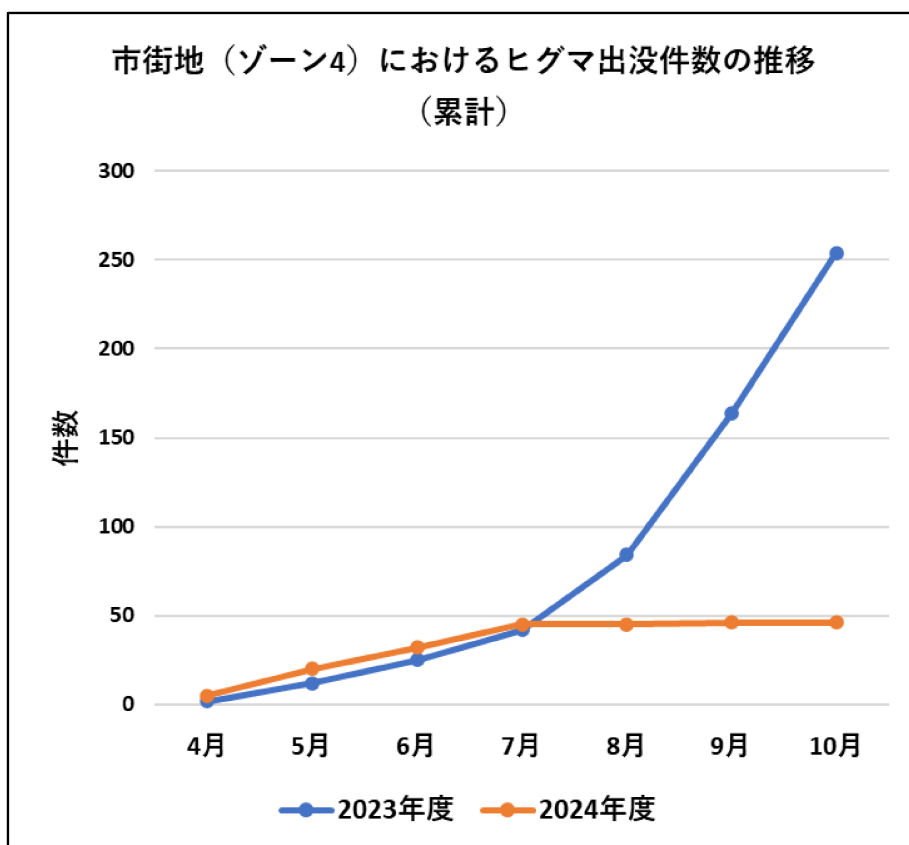


図 6. 市街地（ゾーン 4）におけるヒグマ出没件数の推移（累計）

【国立公園内】

- ① 4 月 29 日及び 7 月 11 日に知床五湖の高架木道入口付近でオス成獣サイズのヒグマが利用者に
対し威嚇突進を繰り返す事案が発生した。7 月 16 日には高架木道入口付近で臨場した対策員に
対してオス成獣ヒグマが繰り返し威嚇行動及び威嚇突進を行ったため、関係機関と協議の上、
当該ヒグマを有害捕獲した（行動段階 3）。
- ② 知床横断道路（羅臼町）において、人を避けないヒグマが出没し、6 月 18 日に有害捕獲となっ
た。過年度において、車両への付きまといやドアミラーの破壊行為などが疑われていた個体が
複数いたが、当該個体はそのうちの一頭であることが遺伝子分析によって明らかとなった。
- ③ 9 月以降、斜里町の岩尾別川周辺で頻繁にヒグマが出没し、多数のカメラマンや利用者が連日
川沿いで待機している状態が続き、現地の混雑や交通障害が頻繁に発生した。改正公園法によ
るヒグマへの接近・つきまとい等の行為規制の開始以降においても、利用者の問題行動に起因
する危険事例が度々確認されている（図 7）。
- ④ 斜里町の幌別及び岩尾別地区において、1 月下旬頃まで継続しても複数頭のヒグマの活動が確
認された。

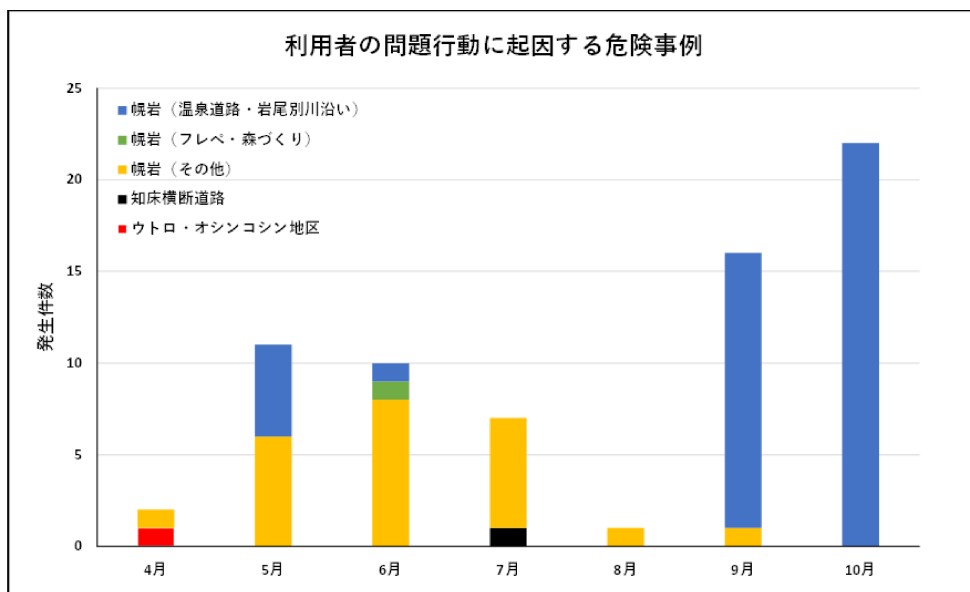


図 7. 2024 年度利用者の問題行動に起因する危険事例の月別・地区ごとの発生件数

※2024 年 10 月末までの集計値

【知床のヒグマに関する普及啓発・情報発信サイト】



知床のひぐま
(HP)



BearSafetyShiretoko
(Facebook)



Bear Safety Shiretoko
(X : 旧 Twitter)



bear_safety
shiretoko
(Instagram)